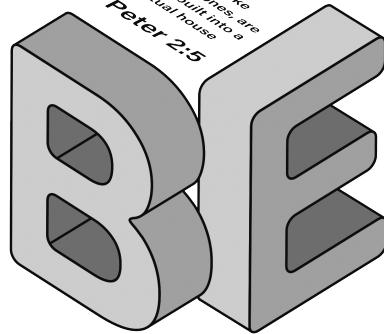


YOUTH MANNA



あなたがた自身も生ける石として靈の家に築き上げられ、神に喜ばれる靈のいにえをイエス・キリストを通して献げる、聖なる祭司となります。

(ペテロの手紙第一 2章42節)

<p>2026/1/12(月)</p> <p>民数記 7:24-41</p>	<p>●神殿の祭壇奉獻のため、12部族の族長は1人1日ずつ獻げていった。今日の箇所では、ゼブルン族、ルベン族、シメオン族が獻げている。獻げたものの数や内容を比べてみよう。それは同じかな？また、違うとすればどこが違うだろう。</p> <p>●實際は、教会で全員が同じ額の獻金を、同じものを獻げるのはとても難しい。でも、今日の箇所からわかるのは、「日ごとに」「神様に獻げる」ことが大切だということではないだろうか。</p> <p>★今日、あなたが神様に獻げられるものには何があるか、考えてトライしてみよう！</p>	<p>2026/1/13(火)</p> <p>民数記 7:42-65</p> <p>●昨日の箇所に続いて、部族ごとのささげ物が記されている。まったく同じささげ物が捧げられているけれど、なぜ聖書では省略されずに丁寧に記されたのだろうか。考えてみよう。</p> <p>●僕らの毎日の日々も、同じことの繰り返しに見えることがあるかもしれないね。でも神様は一人ひとりを軽んじることなく、その歩みを確かに覚えておられるんだ。目立たないように思える繰り返しに見えることでも、君が捧げた祈りや賛美、奉仕は神様に覚えられているんだ。今日の君の歩みの一瞬一瞬が神様に知られていることを覚えて神様を見上げて歩んでいこう！！</p>	<p>2026/1/14(水)</p> <p>民数記 7:66-89</p> <p>ダン族、アシェル族、ナフタリ族のささげ物がささげられ、12部族すべてのささげ物が終わった。12部族はそれぞれに、しかし主の民として一つとなって神様にささげ物を獻げたよ。その後、モーセが会見の天幕に入ると、モーセは神様の声を聞いた。幕屋の完成とささげ物に対して、神様は語りかけることで応えられたんだ。</p> <p>僕らにとって最も大切で価値があるものは何だろう？目に見えるものを思い浮かべる人もいるかもしれないけれど、神様との関係に生かされることこそ最も大切なことなんだ。今日も君に語っておられる神様に心を向けて歩もう！</p>
<p>2026/1/15(木)</p> <p>民数記 8章</p> <p>●神様はモーセにどんな燭台をつくってといったかな？2節</p> <p>●神様はどうしてレビ人をとったのかな？18節</p> <p>この箇所は、神様がレビ人について言わされた箇所だよ。レビ人はイスラエルの長子に代わって主のものされている人たちで、きよくなつてささげ物を捧げて神さまに仕えるよ。当時神様に仕えるにはきちんときよめらる必要があったんだ。でも今はイエス様のおかげできよめられる必要はないよ。奉仕することでわかる神様の愛や計画もあるんだ。やってみたい奉仕はあるかな？あつたら祈ってみるのもいいし、もうやってもいいかもしれないよ。必要なのは神様の方向を見ることだよ。</p>	<p>2026/1/16(金)</p> <p>民数記 9章</p> <p>●イスラエルの民は何を基準にして進んだり宿営したりしただろう？17節を読もう。</p> <p>●神様は民への合図を雲によって出されたね。雲がのぼる天幕は、どこにあったか覚えているかな？2:17を振り返ろう。</p> <p>●イスラエルの民は、宿営の中心に幕屋を置き、神様の合図に従って旅をしていた。自分たちの考えではなく、神様の言うことに従って進んだんだ。きみにとって神様を生活の中心におくつてどういうことだろう？</p>	<p>2026/1/17(土)</p> <p>民数記 10:1-10</p> <p>神様はイスラエルの人たちに銀のラッパを作り、集まる時や出発の時など音を分けて合図をするように命じられた。</p> <p>これにはただ人が人にする号令の意味だけでなく、神様が人々に呼びかけて働きかけていることを表すものだったんだ。</p> <p>実は「教会」というギリシア語の意味も「呼び出された者たち」っていう意味があるんだって。この言葉から私たちは、いつも集まっている時も神様が招いてくださっていることを学ぶことができる。家の教会や礼拝で集まる時、私たち自身も励ましや恵みをたくさん受ける。</p> <p>その時に自分が楽しいだけでなく、中心にいて招いてくださっている神様の語りかけは何か目を向けていこう！今日神様が語ってくださっていることに耳を傾けてみよう！</p>	<p>2026/1/18(日)</p> <p>民数記 10:11-36</p> <p>神の民イスラエルはシナイの荒野を旅立ち、約束の地へと向かっていきました。モーセは出発する時にも、とどまる時にも、いつも神様に祈り、その旅を進めてきました。</p> <p>ただ目的地に向かうだけの移動ではなく、神の臨在によって守られ、導かれてこその歩みだと、モーセは信じて祈っていたんだね。</p> <p>私たちの毎日も、神様が示したところに向かっていく、信仰の歩みです。進む時、立ち止まる時、様々な場面があると思うけど、その度に神様に心を向けて祈ってみよう。</p>